



初日の夜には、全町を渡御してきた御神輿が御仮殿に安置されるが、一筋縄ではいかない。世話人に幾度となく押し返され、散々もまれたのち、ようやくご安置される



初日は、布川13地区の子供神輿も布川神社へ集結。お祓いを受けたあと町内を元気に練り歩く

二日目は、台風の影響で残念ながら、すべての行事が中止となってしまいました。が、迎えた最終日は、台風一過の快晴、猛暑の中での開催となりました。

会場では、山車で披露されるお囃子が、朝から祭りの雰囲気盛り上げています。

祭事は、初日同様に禊けからはじまり、そのあと、御仮殿から出された御神輿が、全町の練り歩きに出発すると、各町の山車は一度地元へと帰り、夜を待って布川神社へと再び結集します。

日が暮れ、山車と御神輿が布川神社へ揃うと、いよいよ布川神社臨時大祭のクライマックス「ちようまたぎ」の始まりです。

御神輿が、激しくもまれ、鳥居をくぐろうとするも「まだだ、まだだ」と押し返され、



今回の布川神社臨時大祭の取材にあたり、ご協力いただいた下柳宿の皆さまをはじめ、関係者の方々へ深く御礼申し上げます。ありがとうございました



一日目「禊（みそぎ）」

1～2. 本殿から出された御神輿を担ぐ前に身を清める儀式。各町から集まった威勢の良い若衆たちが大量の水と歓声を浴びながら77段もある布川神社の石段を7往復する光景は圧巻の一言



祭りの初日となる七月二十七日の午前、各地区を出発した子供神輿と各町の山車が、祭囃子の軽快な笛・太鼓の音色とともに、次々と布川神社下へ集結すると、普段は静かなこの土地が一気にお祭りモードへと切り替わりました。

そして、本殿に納められている御神輿にご神体をご安置する儀式が終わると、いよいよ祭礼がスタート。

各町の若衆による禊が始まります。禊は、本殿から神輿を取り出して担ぐ前に身を清めるために行う儀式で、七十七段もある布川神社の石段を七往復するというもの。威勢よく階段を上り下りする若衆には、集まった大勢の観客から大量の水と歓声が惜しみなく浴びせられます。

禊のあとは、三年ぶりに本殿から取り出された御神輿が境内でひとしきりもまれたあと、全町（旧布川地区）を渡御しながら御仮殿のある内宿集会所へと向かいます。

そして夜は、御仮殿へと舞台を移し、六町六基の山車と全町を渡御してきた御神輿が集結し、華やかな舞の競演が披露されました。

御神輿は、歓声と怒号が飛び交うなか、若衆たちによって再びもまれることとなり、最後は、御仮殿に無事ご安置され初日の幕を閉じました。



三日目「禊・宮入り」

1. 最終日の禊は、御仮殿のある内宿集会所から栄橋下までの直線道路を7往復。会場は参加者と観客の熱気で包まれた。2. 祭りの締めくくり、御神輿を本殿に納める「宮入り」。神輿の高さは本殿の入口をギリギリで通るサイズ、鎮座する金の鳳凰を傷付けないよう慎重に通す

二日目は、台風接近により中止 そして、最終日クライマックスへ

またくぐろうとする。これを何度も何度も繰り返します。最後の力を振り絞り、気力で神輿を担ぐ若衆の姿、掛け声と怒号が響く光景に観客は終始圧倒され、息をのみます。

その間、会場に並んだ山車からは、絶え間なくお囃子が鳴り響き、ひよっこや狐のお面を付けた踊り手が、集まった人々や担ぎ手をこれでもかと煽り続けます。

そして、ついに鳥居をくぐることを許された御神輿は、そのまま一気に石段を駆け上がり、境内へと運ばれ、本殿にご安置される「宮入り」を経て、今年の大祭はすべて終了、布川神社の境内は、いつもの静けさを取り戻しました。

三年に一度行われるこの布川神社臨時大祭は、かつては「布川のお祭り」という印象があり、町民でもご存知ない方が多いと思いますが、今では、担ぎ手の不足などもあり、布川以外の方も多く参加しているそうです。

全国的にも珍しいとされるこの祭りは、いつまでも継承していきたい利根町の宝。まだ見たことのない方は、一度この熱い祭りの雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか。次の開催2021年の夏が、今から楽しみです。



布川神社臨時大祭

2018年 布川神社臨時大祭 日程

- 【1日目】7/27(金) 子供神輿、祭礼始め、修祓、禊、神輿渡御、御仮殿へ神輿安置
- 【2日目】7/28(土) 台風により中止
- 【3日目】7/29(日) 修祓、禊、神輿渡御始め、布川神社到着、神輿納め

掛灯籠（かけとうろう）

七賢人ならぬ七犬神として描かれた今年の掛灯籠は、町内在住の日本画家 中村寿生氏の作。犬の頭上に描かれた竹葉は、竹冠に犬で「笑」という字になぞらえている。



修祓（しゅばつ）… 祭事に先立って神職が行う清めの儀礼
神輿渡御（みこしとぎよ）… 神霊が宿った神体や依り代を神輿に移し、氏子地域内への行幸を行うこと
御仮殿（おかりや）… 神輿渡御の際に、神輿が神社を出て、一時的に休まれて神事を行う仮の宮のこと



最終日、布川神社下には6町6基の華麗な山車が集まり、軽快な祭囃子と妖艶な舞の競演が夜遅くまで繰り広げられ、会場は3年ぶりの祭りに酔いしれる人々の熱気で包まれた

三年ぶり、待ちに待った熱い夏

本年、平成三十年は、三年に一度開催される布川神社臨時大祭の開催年に当たります。

この大祭は、毎回、七月末の金曜日から日曜日の三日間に渡って行われますが、平成最後の開催となる今回は、残念ながら台風の影響により二日目の行事がすべて中止となってしまいました。が、初日と三日目には、地元布川地区の方だけでなく、町内外から多くの見物客が訪れ、心待ちにしていた三年ぶりの祭りに酔いしれました。